

# 平成24年12月議会 議案質疑

## 水道料金改定議案（総務建設経済委員会提出）

○料金改定率 原則30%引き上げ、一般家庭使用分は25%

委員会において否決されました。

◎提案理由

- ①給水開始時（昭和48年度）から使用している老朽化施設の更新（かなり古くなっています。）
- ②東日本大震災を踏まえた水道施設の耐震化（市内あちこちで見られた水道管破裂。これに備えた耐震化）
- ③人口減少や節水型機器の普及による水道使用水量の減少（人口が少なくなれば、収入は減り、節水により各家庭が支払う水道料金は安くなります。→水道事業としての収入は減ってしまいます。）

施設は、昭和48年ころにつくられた水道管などはかなり古く、地中で錆びて、穴があいたりすることがあります。漏水事故も何回かおきております。早く更新しておかないと、余震活動が続く中、漏水事故がまた起こる可能性があります。放っておくわけにはいきません。老朽化施設を更新するには、資金が必要となります。それにもかかわらず、③の理由より、水道使用料の回収率は、年々減っていきます。

これまで、水道事業経営については、民間委託の推進や職員配置見直しなど経費削減による経営努力につとめ、水道料金を平成4年改定以来、据え置いてきました。高萩市の水道料金は県内で48中44位だったのです。しかし、上記の理由により経営状況がさらに激しくなり、今後資金不足となることが見込まれるため、そこで、やむなく、水道料金を上げることが提案されました。

## 委員会における議案の否決…

一般家庭で25%も値上げされることになるのは、厳しすぎるのではないかと、いうことで、委員会においては否決されました。しかし、このままでは、議案そのものが通らず、水道事業がスムーズにいかなくなることから、最終日に議案は取り下げられ、改めて追加議案として**20%値上げの訂正案**が出され、可決されました。その結果、この改正案（下記）のとおり、水道料金の値上げが行われることになりました。ご理解とご協力をよろしく申し上げます。今後の県内順位は、41位で、値上げしても県内の他の市町村に比べ、かなり安い方だと言えます。

○料金改定率：一律20%引き上げ

・水道料金新旧比較

（例）家庭用20㎡使用した場合の水道料金（1か月につき：口径20mm）

現行額	改定後の金額	増加金額	実改定率
2,656円	3,171円	515円	19.39%

（※メーター使用料、消費税含む）

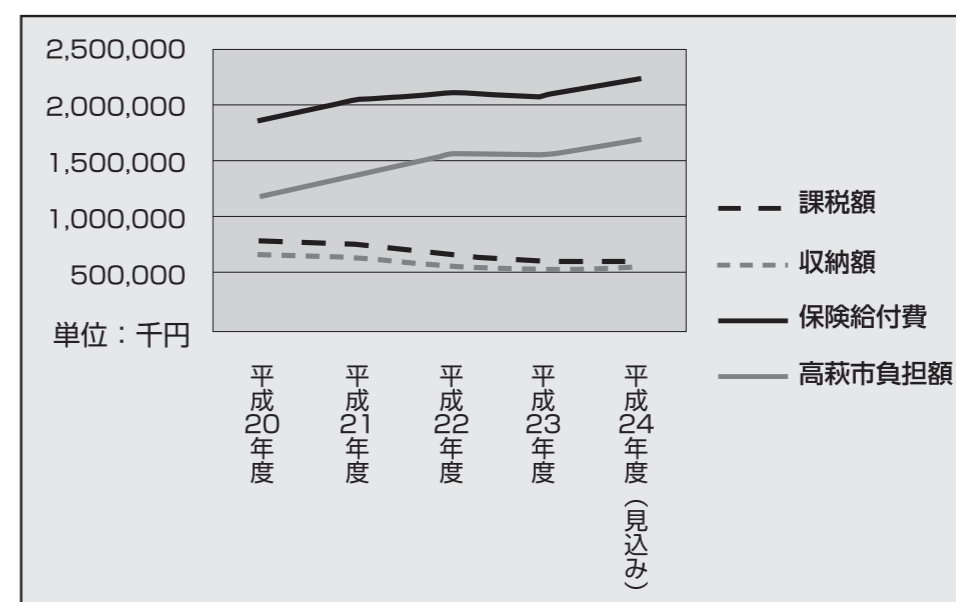
# 国民健康保険税の改正

国民健康保険事業は、市民からの国民健康保険税としての税収により、医療を受けた際の負担をしますが、徴収した税収だけでは賅えないので、市の一般会計から繰り入れています。本来なら、万一に備え、厚生省からの通知により基金として5%の保有が望ましいとされています。平成22年度、高萩市の国保事業は比較的余裕があり、市民に還元した方がいいとの意見が出て、国保の税率を下げた経緯があります。ところが、その後、超高額医療費が発生し、さらに23、24年度は震災被災者一部負担金減免措置により、急激に保険給付費が増加することになってしまいました。また、後期高齢者医療制度への被保険者の移行や景気低迷による所得の減少により歳入が減り、医療技術の進展による医療の高額化、及び後期高齢者支援金等の負担額の増加により歳出が増え、赤字運営となっています。（表、グラフ参照）

そこで、今後の状況を踏まえると税改正により歳入の一部の確保が必要であるということになりました。改正としては、平成22年度引き下げ前の税率に戻し、平成25年4月1日から施行することになります。ご理解とご協力をよろしく申し上げます。

## 国民健康保険税：課税／収納状況（現年度分）

年度区分	課税額	収納額	収納率	保険給付費	高萩市負担額
平成20年度	788,178,400	675,913,870	85.76%	1,863,669,000	1,187,755,130
平成21年度	764,050,500	653,347,753	85.51%	2,040,179,000	1,386,831,247
平成22年度	660,356,600	561,587,170	85.04%	2,114,666,000	1,553,078,830
平成23年度	596,293,700	528,001,240	88.55%	2,086,967,000	1,558,965,760
平成24年度（見込み）	619,366,200	551,235,918	89.00%	2,239,994,000	1,688,758,082



税率改正後1世帯当たり平均賦課額		
順位	市町村名	賦課額
1	境町	247,064
2	五霞町	225,463
3	八千代町	219,078
4	坂東市	214,401
5	常総市	197,664
6	下妻市	197,205
7	結城市	196,415
8	河内町	195,072
9	つくばみらい市	194,307
10	守谷市	194,024
11	かずみがうら市	192,955
12	茨城町	192,029
13	利根町	190,973
14	神栖市	190,316
15	桜川市	186,985
16	行方市	186,368
17	筑西市	183,696
18	石岡市	181,947
19	つくば市	181,521
20	鉾田市	179,520
21	鹿嶋市	177,293
22	小美玉市	176,525
23	笠間市	175,894
24	潮来市	174,254
25	取手市	173,445
26	龍ヶ崎市	172,537
27	土浦市	169,282
28	阿見町	168,716
29	稲敷市	168,069
30	那珂市	166,378
31	美浦村	163,729
32	水戸市	163,653
33	古河市	163,037
34	牛久市	161,604
35	大洗町	152,741
36	大子町	152,136
(37)	高萩市 ※改定後	150,070
37	北茨城市	148,504
38	ひたちなか市	148,131
39	城里町	147,569
40	日立市	144,294
41	常陸太田市	138,037
42	高萩市 ※改定前	137,032
43	常陸大宮市	126,300
44	東海村	109,180
平均		175,576

# 震災復興等対策特別委員会 1月18日

## ●避難情報配信システム ー戸別受信機に替わって…

現在、防災対策の一つとして、防災無線の内容を市内全域に確実に伝達する手段として、各家庭に戸別受信機をつけるということが震災特別委員会では執行部に提言してあります。これを実現しようとする、約10億かかると言われていますが、防災のためには・・・ということで北茨城市と連携して進め、国に補助制度を活用したいと要望することを検討していました。これに対し、執行部の方から、Jアラート（全国瞬時警報システム）とドコモ、au、ソフトバンクの携帯電話大手4社が連動して、防災無線と同じ内容が発信できるシステムがあるということが紹介され、それを導入すると、約500万円で、携帯を持っている、高萩市内にいるすべての人（観光客でも通りすがりの人でも）に、防災無線と同時に災害エリアメールが送信されるそうです。このシステムを戸別受信機の代わりに導入すれば、画期的に、経費もかからず、より確実に減災できると考えられます。現在、高萩市の世帯95%で携帯電話を持っているそうですし、携帯電話を持っていない家庭にだけ戸別受信機をつけるなど、別な伝達手段を考えればいいのです。先日の地震の時に、携帯を持っている方は高萩市からのエリアメールを受け取ったと思いますが、そのシステムでは、市役所職員が、文章を作り、それを携帯各社に送信してから、各個人に送られるので、その時間がかかるが（今回は約30分かかった）、今回紹介されたものは、防災無線と同時に同時に、確実に情報を伝達することが出来るそうです。それぞれが、アンテナを立てて色々な情報を得て、持ち寄り、よりよい方法を作り上げていきたいと思っています。

### 新システムと戸別受信機との比較

項目	種類	エリアメールを活用した新システム	戸別受信機
システム概要		携帯電話会社3社（ドコモ、au、ソフトバンク）の端末へ、新システムから、緊急情報をエリアメールとして無料で発信（別紙資料参照）	整備済みの防災行政無線（同報系）による電波を受信し、放送内容を音声出力
J-ALERTとの連動		・J-ALERTからの自動発信 ・屋外子局と同じ内容の発信も可能 ※手入力により、他の避難情報等も発信可能	・J-ALERTからの自動発信 ・屋外子局と同じ内容の放送
発信情報		・防災情報、国民保護情報	・防災情報、国民保護情報
対象者		市内にいる携帯電話保有者（観光客含む）	・市民各世帯（戸別受信機設置世帯）
導入費用比較		・約5,000千円	・約720,000千円
運営費用比較		・システムの保守管理費のみ（見積依頼中）	・システムの保守管理費（故障機械の対応含む） ※転入世帯の対応（随時必要台数確保）
メリット		・市はシステム構築（約5,000千円）のみ ・個人単位に防災情報の提供が可能 ・メール配信のため、情報が保存される。（聞き漏らす心配なし） ・天候に左右されず、移動時も確認できる。 ・市内全域（観光客含む）へ一斉に情報が発信	・世帯単位に防災情報の提供が可能 ・強制的に情報発信（受信）される ・操作が容易 ・天候に左右されず聞き取れる。 ・エリアの全世帯をカバー
デメリット		・携帯電話未保有世帯への対応 ・山間地域等の不感エリアの解消 ※携帯各社とも随時エリア拡大中	・毎年度管理経費が発生 ・通常持ち運ばないので、聞き漏らす心配がある ・1台当りの単価が高価（42,000円程度） ※地域を限定する等により経費を抑える事が可能 ・電波の状況により別途工事費が発生 ・転入転出世帯への戸別受信機の配布・回収が随時発生 ・戸別受信機の故障対応が随時発生

## 吉川の考察

今年度から、水道料金、国保税ともに上がることになりました。市民の皆様には大変ご迷惑をおかけします。申し訳ございません。どちらも、県内の他の市町村からみて、特別高いわけではありません。むしろ安い方だったので、ご理解いただければと思います。今後、高萩市において安心して安全に暮らしていただくためのお金となります。よろしくお願い致します。国民

健康保険事業につきましては、冒頭にも書きましたが、日頃から市民全体が健康に気をつけ、病気の予防に努めることにより、全体的な医療費を出来るだけ抑えることで、事業が健全に運営されます。ともに健康づくりには気を配っていきましょう。

最終処分場の問題については、引き続き矢板市と共同歩調であくまでも白紙撤回を求めて努力していきたいと思っています。「最終的には出来てしまうのでは？」という意見もありますが、懸念される問題は（活断層、地下水への影響、希少生物の存在など）ははっきりと申し上げて、「それでも高萩ですか？」という問いかけはしていくべきだと思います。高萩市にはたったの0.4トンしかないのです。県内全域から何百トンもの廃棄物を運ぶこととし、それでも国が高萩を選び、処分場を作ったとして、活断層により地震が起きてまた再び放射能汚染に悩まされることになったら、それは国の大きな責任です。それらの主張をしておかなければ、「知らなかった」と言うかもしれません。そうなった場合の影響は高萩市だけにとどまらないでしょう。よく考えていただかなければならない問題だと思います。

## 意見交換会の開催

日頃ご支援・ご協力ありがとうございます。市政に対し、日頃から疑問に思っていること、意見したいと思っていることはありませんか？そこで、下記のとおり、意見交換会を開きたいと思っております。日頃の思いを吉川に聞かせていただければと思いますのでご自由にご参加ください。

日時／平成25年2月9日（土）  
午後3時より4時まで

場所／総合福祉センター2F会議室3

# よしかわ通信



りんどう  
凛道



発行

高萩市議会議員

よしかわ どりゅう  
吉川道隆

高萩市安良川686  
TEL 0293-24-0833  
FAX 0293-22-3340  
ホームページ <http://www.douryu.net>  
E-mail [info@douryu.net](mailto:info@douryu.net)

向春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、ひとかたならぬご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年末は、あまりインフルエンザにかかっている話は聞きませんでしたが、今年になって急に寒さも厳しくなり、インフルエンザも流行ってきました。私は毎年、予防注射をします。注射をしても、かかる時もあるそうですが、注射してあれば軽くすむそうです。手洗い・うがい・食事・睡眠をきちんと励行していれば、かかる可能性は低くなります。体調管理をきちんとし、無理をしない、ひどくならないうちに受診する、普段の心がけが健康をつくります。国保税の税率が上がりますが、一人ひとりの心がけで全体の医療費をおさえることにつながります。お互い気をつけましょう。

今後ともご指導、ご意見よろしくお願い申し上げます。

# 最終処分場建設問題について

## ●環境省 井上信治副大臣 来訪 1月4日



平成25年仕事始めの日、早々と就任あいさつを兼ね、高萩市を訪れました。草間市長から白紙撤回を強く要望しましたが、「前政権の選定プロセスを今後、検証する。」と答えました。「高萩市、矢板市で良かったのか、プロセスが適正だったか、評価がどうだったか、全てを検証していきたい。検証もしないうちに現段階で白紙撤回とは言えない。」ということでした。話合いの中で、私から、「政権が変わったのだから、民主党の考えに基づいた、従来の環境省の事務の流れに沿うのではなく、自民党のやり方で、政治主導で、進めていただき、まずは白紙に戻した上で最初から考え直してほしい。」ということをお願いしたのですが、やはり「白紙に戻すということはまずない」「何とかご理

解していただく」というようなお話で、がっかりしました。やはり、官僚主導であり、政治主導というのは難しいとつくづく感じた会談でした。検証していく中で、評価の仕方など一面的だと思うところを気づいていただきたいと思います。

## ●矢板市議会との意見交換 1月17日

矢板市議会から議員14名が来訪しました。最終処分場候補地の現地視察を行いました。あいにくの残雪のため、進入口から先に入ることができず、航空写真での確認、現地の状況などの説明を行いました。役所に戻り、両市の今までの取り組みについて、市民同盟との連携の在り方について、今後の取り組みについて話しました。両市議会とも、「市民同盟とは一線を画して活動していく。今後は両市議会、栃木、茨城、選出の国会議員、並びに北関東ブロック比例区の代議士に要望活動をしていく。また、今後とも両市議会の共同歩調をしていく。」ということで、意見を交わしました。

